蓼科高原亀甲池と鏡ヶ池の構造土

奥 倉 憲 雄

亀甲池は、蓼科山東方、横岳の北麓標高約 2,060m の地点にあり、南北に底辺をもつほぼ三角形の小さな池である。水深 2m 程度で、池底面は 2 度の傾斜をもち、そこにみごとな sorted polygons が形成されている。それらは、直径 40~200cm の円形ないし楕円形をなし、おのおのの縁辺部では pebble 以上のものが大部分を占め、下層ほど分粒されている。中央部は 2cm 以下の礫と砂などから成る細粒物で構成されており、その表面は水平であるが、冬季には凍結による 3~5cm の隆起が観測された (付図, 1964~65年調査)。

鏡ヶ池は、白根山の東方 2km、標高約 1,780m にあるほぼ円形をした池で、みごとな sorted polygons を形成している (写真)。直径 70~130cm で、亀甲池のものより規模は一定しているが、縁辺部には亀甲池の礫より大きなものが多く見られ、中央部は 3cm 以下の細粒物で、下層になるにしたがって、より細粒となっており、よく分粒されている。

以上紹介したような、構造上の形成過程について明らかにされている事実は、多くはないが、この 2ヶ所の polygons に特徴的なこととしてあげることができるのは、土壤水分においてである。すなわち亀甲池は春・夏季には湛水し、秋季には渇水状態となって polygons が表

われ、冬季には氷雪に覆われる。鏡ヶ池も夏季から秋季にかけて減少し、水面が縮少されて、polygons の多くが表われる。そのために構造上の形成において重要な役割を持つ凍結の影響を強くうけることが明らかであり、また、春季から夏季にかけて湛水することによって、登山者による破壊から polygons を守る役目も果たしていると考えられ、比較的形態がよく保存されている。

今後、このような報告例が集積されてゆくなれば、興味ある事実が判明するものと考えられるので、ここに観察したことを報告する次第である。

(1969. 6. 13 受理)

Patterned Ground of Kikko-Ike & Kagamiga-Ike

Norio OKUSHA

At the northern foot of Yokodake, which is 2,060m above the sea level, there is a small lake, Kikko-Ike. A typical development of sorted polygon is seen there. Its order is 40~200cm.

Sorted polygon (photo) is also shaped at Kagamiga-Ike, a small lake to the east of Mt. Shirane, 1,780m above the sea level. And its order is 70~130cm.

In each example of sorted polygon subsoil of the part shown inside the circle (*Fig) is well sorted. In the process of the formation of these sorted polygon, supply of plenty of water and frequent freeze-thaw action has apparently played an important role.